

# 施設運営の方向性

## 札幌市民防災センター

Sapporo Disaster Prevention Center

令和4年(2022年)8月



札幌市消防局

Sapporo Fire Bureau



**01** 現状と課題  
Current Status and Issues

**02** 施設運営の3つの「方向性」  
3 Directions of Management

**03** 【参考】来館者数の推移  
Changes in the Number of Visitors

# 01 現状と課題

## 開館後の状況

- 平成15年3月に市民の防火・防災意識の向上を図ることを目的に開館
- 平均来館者数62,000人/年
- 東日本大震災や平成25年3月のリニューアルなどをきっかけに、平成25年度には過去最高の年間来館者数88,403人を記録
- 平成30年度には累計来館者数が100万人を突破
- 令和2～3年度においては新型コロナの感染拡大に伴い、入場制限や臨時休館などの対策を実施

## 社会状況の変化

- 近年、北海道胆振東部地震をはじめとする大規模地震がたびたび発生しているほか、「平成30年7月豪雨」や「令和元年東日本台風」など、深刻な人的・物的被害をもたらす大規模災害が頻発しており、その態様も気候変動の影響により多様化、激甚化
- 新型コロナなどの影響により生活基盤のデジタル化・オンライン化が急速に進展

➤ 開館当初から社会の状況は大きく変化

## これからの運営

質の高いサービスを継続的に提供していくためには、社会情勢を見極めつつ、**市民のニーズを的確に捉えた施設運営**を行うことが必要

## 今後の課題

### 課題1 ソフト面の充実強化

開館以来、地震や台風等の「疑似体験」や、それに付随する「パネル展示」といった“ハード”の部分を中心とした運営であったが、ソフト面の質もより一層向上させ、ソフトとハードの両面から機能強化を図ること。

### 課題2 リピーターの確保

防火・防災の知識やスキルを市民に定着させるため、反復して来館し学習を重ねてもらうとともに、個人や団体が防災に関する情報を調べたり、活用するにあたって、繰り返し利用してもらうこと。

## これらの課題に対応するため

**施設運営の3つの「方向性」**の実現によりレベルアップを図る

- ① 防火・防災を楽しく学べる場の創出
- ② 災害対策の自分ごと化と実践の促進
- ③ インタラクティブな情報の収集・発信

1

### 防火・防災を楽しく学べる場の創出



アテンドの方法の工夫やデジタル技術の活用のほか、イベントの開催などにより、**防火・防災が楽しく学べる場を創出してリピーターを増やし**、知識・スキルが市民に定着するようにします。

また、「楽しさ」から「深掘り」や「探求」につながり、よりよい学びや発見ができるよう、センターがお手伝いします。

例

- キャラクターや動画などを活用した親しみやすさの演出
- 多様なメディアを活用した広報やイメージアップ
- クイズやゲームの要素を取り入れた学び
- バーチャルコンテンツの館外展開

## 災害対策の自分ごと化と実践の促進



来館者一人ひとりに寄り添った説明や指導により、**災害を「自分ごと」と感じて**もらうとともに、「具体的に自分がいつ・何をすれば良いか」を理解していただき、来館後**実際に行動を起こすことができる**よう、センターがお手伝いします。

また、地域や団体等の防火・防災活動をサポートし、共助の実践につなげます。

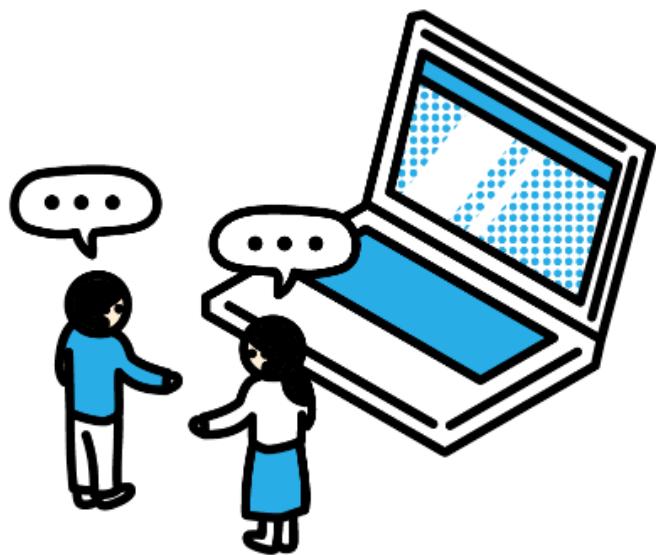
### 例

- 防災行動計画（マイ・タイムライン）の作成支援
- ニーズに応じた避難場所等の情報提供
- ハザードマップの活用支援
- 地域防災の「コンシェルジュ」
- 災害対策グッズの紹介

### 3

### インタラクティブな情報の収集・発信

センターから一方向で情報発信を行うだけではなく、たくさんの情報を整理し蓄える、いわば「**ライブラリ**」となることで、市民が必要に感じたとき、欲しい情報にアクセスできるようにします。



イベントなどを通じ、市民や関係団体、関係機関の間の橋渡しを行いながら、「センターにはいろいろな情報が集まる」という認識を広めることで、**防火・防災に関する情報が交流する場(コミュニティ)**をつくり出します。

#### 例

- 専門家・関係部局職員によるセミナー
- 災害映像ライブラリ、語り部講話
- 防災・消防関係イベントによるふれあい・関係づくり

# 03 【参考】来館者数の推移

